

愛するペーター親方よ、わたしは自分がどのように祈っているか、祈る時にどのように振る舞っているかを、できるだけうまくあなたに示そう。わたしたちの主なる神が、それよりもっとうまく祈ることができるように、あなたにも、またあらゆる人にも教えて下さるように。アーメン。

第一に、わたしは他の仕事や考えによって、祈りに対して冷淡になり、気が向かなくなったと感じる時(肉と悪魔はいつでも祈りを妨げ、妨害するのだから)、わたしは小さい詩篇の書物をもって自分の部屋へ急ぐか、あるいはちょうど日や時刻がよいならば教会の集まりへ行き、十戒と信仰告白を唱え始める。さらに時間があれば、パウロの言葉か詩篇の言葉から幾つか個所を、ちょうど子どもがするように、口に出して自分に言い聞かせる。

だから人が、朝はやくまず第一の仕事として、また夕べの最後の仕事として、祈るのはよいことである。そうすれば「もう少し待ってくれ、一時間もすればわたしはお祈りしよう。その前にまず、あれとこれの仕事を片付けなければならない」というような、自らをあざむく偽りの考えに訣別することになる。というのは、そういう考え方をすると、人は祈りから離れて仕事に取りかかり、すっかり取りまぎれてしまって、その日にはもう祈るようなことにはならないからである。

ところが、祈りと同じように良い、あるいは、それよりももっと良いわざがあるように思えるかもしれない。とりわけ必要に迫られているような時はそうである。だから例えばヒエロニムスが言ったといわれる「信仰者のすべてのわざは祈りである」という言葉や、「だれでも真剣に働く者は、それによって二倍働いていることになる」というような格言が引かれるのである。こういうことは、信仰者がその仕事において神を畏れ、崇め、またその戒めを覚えて、だれにも不正を働かず、だれからも盗まず、詐欺をしたり、何かを着服したりしないことから言われるに違いない。そして、このような考えや信仰は、疑いもなく、彼のわざから、ついには祈りや讃美のささげものを生み出すことになる。(つづく)

【解説】

- 1、 まず祈りましょう。祈りについて考えるよりも、実際に祈りの中に飛び込むことが肝要です。たとえば、詩 23 篇を自分の部屋で音読して、その詩人のことばに、自分の気持ちを添えてみるとかよいのです。やってみること、父の胸を叩いてみること、気持ちを向けることが第一にすべきことです。
- 2、 「人が、朝はやくまず第一の仕事として、また夕べの最後の仕事として、祈るのはよいこと」とありますように、この祈りの勧めは、習慣化された神への「祈り」という枠組みの中に、わたしの一日の想いと行動を置くことを目的としています。そのうえで、「他の仕事や考えによって、祈りに対して冷淡になり、気が向かなくなったと感じる時(肉と悪魔はいつでも祈りを妨げ、妨害するのだから)」とありますように、神の戒め(十戒と信仰告白という恵みの枠組み)から離れないように、それを唱えるか、詩篇をもちいて心を神にむけて軌道修正をすることを教えています。